

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 6 部門第 2 区分

【発行日】平成31年3月7日 (2019.3.7)

【公開番号】特開2017-142304(P2017-142304A)

【公開日】平成29年8月17日 (2017.8.17)

【年通号数】公開・登録公報2017-031

【出願番号】特願2016-22168(P2016-22168)

【国際特許分類】

G 0 9 F 9/00 (2006.01)

G 0 9 G 3/36 (2006.01)

G 0 9 G 3/20 (2006.01)

G 0 9 F 9/30 (2006.01)

G 0 2 F 1/1333 (2006.01)

【 F I 】

G 0 9 F 9/00 3 4 6 D

G 0 9 G 3/36

G 0 9 G 3/20 6 9 1 D

G 0 9 G 3/20 6 8 0 G

G 0 9 G 3/20 6 8 0 H

G 0 9 G 3/20 6 1 1 F

G 0 9 G 3/20 6 2 1 A

G 0 9 G 3/20 6 2 1 M

G 0 9 G 3/20 6 2 4 C

G 0 9 G 3/20 6 2 4 E

G 0 9 F 9/30 3 3 0

G 0 9 F 9/30 3 0 8 Z

G 0 9 F 9/00 3 6 6 A

G 0 2 F 1/1333

【手続補正書】

【提出日】平成31年1月23日 (2019.1.23)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 9 】

さて、映像線 7 8 及び走査線 8 0 を表示領域 7 2 の端から端へ架け渡した場合、図 2、図 4 に示すような場合では、映像線 7 8 及び走査線 8 0 が配置される信号線敷設領域 1 0 2 は表示領域 7 2 と基本的に同じ形状になる。しかし、図 5 に示すように表示領域 7 2 e が谷部 1 0 0 を有するような形状である場合に信号線敷設領域 1 0 2 e は表示領域 7 2 e と一致しないことがある。図 5 に示す例では映像線 7 8 e は当該映像線が通る横方向の位置での表示領域 7 2 の上端  $P_U$  と下端  $P_D$  との間に形成されるため、谷部 1 0 0 も信号線敷設領域 1 0 2 e に含まれることになるからである。つまり、信号線敷設領域は狭額縁化のため、基本的には表示領域 7 2 に合わせるように設定されるが、常に表示領域 7 2 と同じ形状となるとは限らず、表示領域 7 2 より面積が大きくなる場合が起こり得る。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 5 2

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0052】

また、コモン電極82は、図6では、便宜上3画素分の幅に渡って形成される例を示すが、一般的には先述したように、2～30列の幅を持って形成される。「ComSR」、「ComSW」は、図6で示すように、コモン電極82に対応して設けられる。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0065

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0065】

つまり、コモンドライバ58の構成のうち本実施形態で第3縁部E<sub>3</sub>基本的に全体に沿って配置されるものは、スイッチ回路88、駆動信号伝送線92及びスイッチ制御線108である。図10に示す例では、第2重複縁部E<sub>x2</sub>の額縁領域に信号線敷設領域102側から素子基板70の縁に向けて順に、スイッチ回路88、スイッチ制御線108、走査線ドライバ54が配置される。